

# SDGsの取り組み推進

## 鉄スクラップ事業強化 カarbonニュートラルに寄与

鉄スクラップ業の大阪故鉄(本社・大阪市住之江区、社長・矢追大祐氏)は、工場のクリーン化・働きがいのある職場作り・環境関連の認定取得などSDGsの取り組みに注力している。同取り組みは2019年から準備を始め、20年度から本格的にスタートし30年度を最終期としている。3年目を迎えようとしている今期はチャレンジ期と位置付けている。1～3年目の取り組みを紹介する。(綾部 翔悟)

第1段階(19～22年度)と話す。 として矢追社長は「2年前 本業の鉄スクラップの取 として、今年2月に諸福工にSDGsを宣言して以り扱いについては循環型の場(大阪府大東市)を拡張降、企業として時流に沿っ リサイクル品としてSDG した。鉄スクラップの加工た取り組みを開始し、推進 sへの寄与に大きくつながら 前の選別を強化して付加価値するとともに従業員への意 っている。その中で、企業 値の高いサービスを提供し識の浸透を目指している」の収益基盤の強靱化とカー っている。



GTL燃料の重機でクリーンエネルギー化する諸福工場

また先月からは同工場に放射線検知機(スクラップモニタ)を導入して安定品質・安定供給に磨きをかけている。そのほかにも工場内の重機をすべて、天然ガスから精製された液体燃料GTL(Gas to Liquids)にしており、CO<sub>2</sub>削減による工場のクリーンエネルギー化を進めている。

福利厚生については、年に1回の面談で社員の希望・要望になるべく沿えるよう、風通しのよい職場環境を追求している。その一環として安全衛生改善の提案は日常的に受け付けており、過去には男性の育児休暇取得実施や、直近では若手従業員から意見をくみ取り諸福工場のライトのLED化を検討している。資格補助も行っており、授業料や試験料など全額を大阪故鉄が負担し、各従業員の資格取得の促進につなげている。矢追社長自身も災害時に会社と地域に貢献するべく防災士の資格を期中に取得しており、年々、資格取得者は増えている。

## 環境・労働安全衛生認証も取得

工場の安全など社内研修の充実も図っている。「安全第一のもと、全従業員に深い関係にあることや、環境に寄り添った提案・要望を日頃から試行錯誤していく」という意識をもってほしい」とし「それに対して会社としてできることはすべてでも対応する体制を敷いていきたい」(矢追社長)と語る。

企業としての取り組みを社外にPRするだけでなく、従業員への意識付けの環境などSDGsへの取組一環として、SDGsと関係性のある規格や認定の取得にも積極的。今期は、12月にISO14001(環境)を取得し、中小規模事

業場労働安全衛生評価事業「JISHAグッド・セーフティ・カンパニー(GS&C)」も期中に取得予定。 全社での安全レベルの向上・災害などの事業リスクの低減・SDGsと関連のある資格の取得は今後も進んでいく方針。第2段階(23～25年度)では第1段階で取り組んだ事案の見直しや新たなターゲットとして脱炭素社会への貢献をメ

